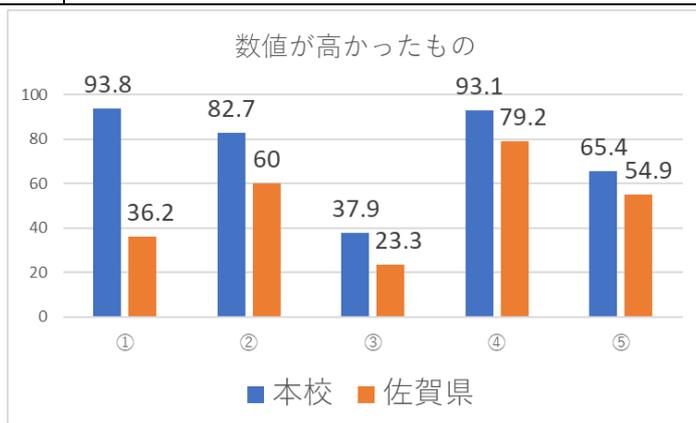


## ◆学習・生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

### 【 数値が特に高かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	5年生までに受けた授業でPC、タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか
②	今住んでいる地域の行事に参加しているか
③	平日のゲームや携帯電話、スマホを使用した時間（1時間以上）
④	学習状況調査の解答時間が十分だったか
⑤	平日の授業時間以外の学習時間（1時間以上）

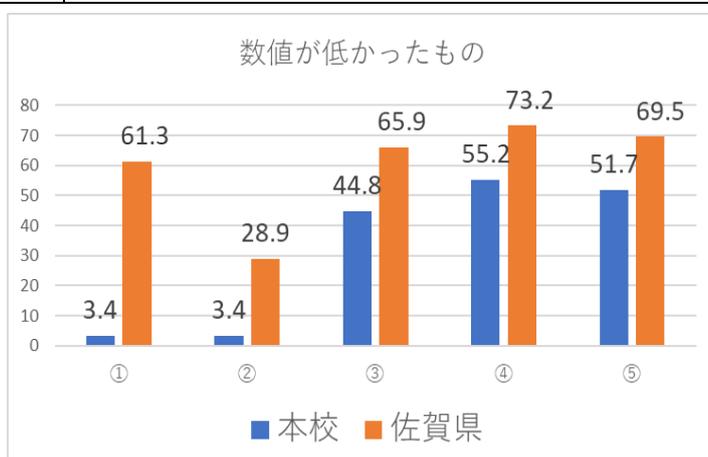


#### 分析と取り組み

- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」は、昨年も数値が高く、岩松小の強みと言える。平日の家庭学習やスマホ使用時間が短いことから、平日の過ごし方は、とても良いことがいえる。
- ・今後も規律正しい平日の過ごし方を守ることや、地域の行事に参加するように指導していきたい。

### 【 数値が特に低かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	学校で授業中に自分で調べる場面で、PC、タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか
②	学校で自分の考えをまとめ、発表する場面でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか
③	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあるか
④	自分と違う意見について考えるのは、楽しいと思うか
⑤	家で自分で計画を立てて勉強しているか



#### 分析と取り組み

- ・6年生は、タブレットを授業の中で多く使用しているが、タブレットを使って調べたり発表したりする機会が少ないので、今後は「タブレット活用週間」を設定して、タブレットを使った学習を進めていきたい。
- ・家で自分で計画を立てて勉強しているかについては、家庭学習チェック週間の時に、

## ◆令和4年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

### 全体の概要

- ・ 全体的に見ると、県や全国平均を大きく上回っている。
- ・ 観点別に見ると、知識及び技能、思考力、判断力、表現力ともに上回っている。  
「話すこと・聞くこと」は、県や全国とほぼ同じ結果であった。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題に課題がある。</li> <li>・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使えているかについては、県、全国ともに大きく上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原稿を用意してスピーチする場面に置いて、そのままスピーチしてわかりやすいかどうか、聞き手の立場に立って考えさせる指導を行う。</li> <li>・ 学習の振り返りや作文を書く時に漢字の意味を理解し、正しく使わせる。</li> <li>・ 作文や学習のふりかえりを書かせる時に、良さや正しさを意識させる指導を行う。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話すこと・聞くこと」の領域の必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える問題に課題が見られた。</li> </ul>	<p>(話すこと・聞くこと)</p> <p>話し手が伝えたいことなのかどうかを考える時に、あてはまるかどうかという視点で取り組ませる。</p> <p>(書くこと)</p> <p>計画的に条件を提示して文章を書くことの指導をする。そしてその作文を書いたあとに、お互いの文章に対する感想や意見を伝え合う場面を設定する。</p> <p>(読むこと)</p> <p>何について聞かれているかなど、キーワードになる言葉や問われていることに印をつけながら読む指導を行う。</p> <p>何の話題についての文章なのかをまずつかませるようにする。</p>

## ◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

### 全体の概要

- ・ 全体的に見ると、県や全国平均を大きく上回っている。
- ・ 観点別に見ると知識・技能、思考・判断・表現ともに上回っている。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>・ 目的に応じて、円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題に課題が見られた。                      数量が変わっても、割合は変わらない                      (果汁20%の飲み物の量を1/2にしても、濃度は変わらない) こを理解できているかを問う問題について課題が見られた。</p>	<p>・ 円グラフや帯グラフなどの学習をした時に、概念を習得させたあと、活用の仕方などの学習に取り組ませる。                      ・ 日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解させるように指導していく。</p>
思考・判断・表現	<p>・ 正三角形をかくプログラムを考える問題で、正三角形の意味や性質を基に、コンピュータを用いて作図する時は、角度の取り方に違いがあることに気付き、そのことを記述できているので、これまでの指導の成果が見られた。</p>	<p>・ 条件がある記述式の問題を解く機会を増やしたり、問題文のキーワードとなる言葉に線をひきながら読んだりすることで、問われていることを記述できる力がついた。今後も題意の確認と見直しの習慣を徹底させたい。</p>

## ◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 理科 》

### 全体の概要

- ・全体的に見ると、県や全国平均を大きく上回っている。
- ・観点別に見ると、知識・理解、思考・判断・表現ともに上回っている。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果から、問題の解決に必要な情報が、取り出しやすく整理された記録を選ぶことができていない。</li> <li>・メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取ったり、量り取る時には、スポイトで水を加えることで調整したりすることが理解できていない。さらにスポイトで加える水の量を選ぶことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験に合わせた記録の仕方を指導していく。</li> <li>・器具の正しい使い方を、授業の中で丁寧に取り扱っていく。実感を伴った理解が進むように、全員が器具に触れる時間を取る。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や自然の事物現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、自分の考えをもつことができない。</li> <li>・実験で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち記録することができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表や資料をもとに学習問題を考える機会を増やしたり、日常生活につなげて考える場面を設けたりすることで、自分なりの考えをもつことができるようにする。</li> <li>・実験結果の数値を用いて、学習のまとめを書かせる回数を増やし、記述に慣れさせる。</li> </ul>